

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
<p>1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。(感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)</p>	<p>2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進</p> <p>学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。</p>	<p>○「心かがやけ月間」や「学校保健委員会」をはじめ、豊かな心と健やかな体を育む教育の実践を学校全体として行ってきたことにより、保護者の「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」の割合が昨年度よりさらに減少した。しかし、児童の「わからない」の割合が多いことを真摯に受けとめ、一人一人を大切に指導をさらに推進していく。</p> <p>○自分で考え、自分から取り組む授業づくりに関して、教職員の「そう思う」割合が高い一方で、「そう思わない」の割合も高くなっている。また、児童の「どちらかといえば、そう思わない」「わからない」の割合が高いことも踏まえ、児童が自ら学びたいと思う課題の設定や学びを深めるために必要な対話や反応、表現するためのスキルと自信を持って学習に向かう姿勢を身につけさせる必要がある。</p> <p>○社会をよりよくするために考え、行動できる児童の育成に関して、「そう思う」の割合は教職員が大変高いのに対して児童の割合は大変低く、「どちらかといえば、そう思わない」「わからない」の割合も高い。これまで取り組んできたボランティアや委員会の常時活動などの意義を児童に納得させていくこと、総合的な学習の時間や生活科などの学習時間にも児童の生活や経験が生かせるような課題設定や活動・取組を仕組んでいく必要がある。</p>
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
<p>3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進</p> <p>学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)</p>	<p>4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実</p> <p>学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。</p>	
(2) 子ども一人一人を尊重した教育の推進		考察
<p>6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実</p> <p>学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えられてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。</p>	<p>7 インクルーシブ教育の推進</p> <p>学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。</p>	<p>○個別最適な学びに関しては、教職員も児童・保護者も「どちらかといえば、そう思わない」の割合が高くなっている。自分で課題を設定したり学びの方法を検討したりする経験を積み重ね、さらに家庭学習と日々の授業を連動させることで、「主体的な学び」から「深い学び」は自分で構築することができる意識を転換させていくための取組を工夫する。</p> <p>○対話のある授業については、校内研究で取り組んでいることもあり、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が高い。考えを伝え合う活動を取り入れた授業改善によって児童の困り感も減少させてきている。</p> <p>○支援の充実に関しては、教職員と児童・保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合の差は大きい。学校の取組が十分に伝わっていないという課題が考えられる。支援体制の在り方について積極的な情報発信が必要である。</p> <p>○インクルーシブ教育に関しては、児童・保護者ともに「わからない」の割合が高い。多様な教育的ニーズに対応した支援の充実と同様に、特別支援教育コーディネーターを中心に保護者・児童への啓発や教職員の意識を高めるための研修の在り方について見直ししていく。</p>

(3) 最適な教育環境の整備		考察
8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育(生活・交通・防災など)に取り組んでいると思いますか。	学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	○安全と事故防止については、保護者の「そう思う」の割合が昨年度より大幅に増え、教職員の「そう思わない」の割合が減った。一方で児童の「そう思わない」割合が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答しており、「自分の命は自分で守る」という意識を高め、更なる事故防止に努めたい。 ○家庭や地域との連携協力については、児童の「割合が「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」と回答しており、保護者や地域人材の積極的活用を図るための行事の精選や時間設定の工夫を行う必要がある。

(4) こどものいのちと権利の擁護		考察
10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。		○こどもの権利を守り、保護者が相談しやすい学校に関して、教職員と児童・保護者の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合の差は大きい。校内では人権教育を中心に子どもの権利を守るためにしっかり情報や実践を共有し取組を進めているが、児童一人一人が「自分が大切にされている」と思える取組につながっていなかったり、保護者との連携が安心感を味わえるものになっていなかったりしていたと考えられる。学校の実践を発信し、保護者への啓発の在り方を見直す必要がある。

独自項目		考察
基本的な生活習慣	国語力向上に向けた取組	
こどもは、早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身についていると思いますか。	こどもは、読書や暗唱に意欲的に取り組んでいると思いますか。	○早寝、早起き、朝ごはんの習慣について、保護者、児童は「そう思う」と感じている割合は多いが、教職員はとても少ない。特に、これらの習慣が身につけていない児童の様子を注視し、家庭と連携を図りながら意識づけをしていく必要がある。 ○読書や暗唱については昨年度と比べ「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が保護者、児童は7割と変わらないが、教職員で減っている。親子読書や読み聞かせなどの取組の継続とともに、図書室の有効的な活用について学年に応じた指導を行う必要がある。 ○昨年度同様、児童と教職員については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合が9割を超えている。保護者については8割に満たない。半数の児童は「そう思う」と回答していることから、主体的に取り組んでいることがわかる。今後、さらに児童のがんばりを地域や家庭にも積極的に伝え、植木小の伝統である「三つの宝」について広く周知を図る必要がある。
規律ある学校生活		
こどもは、三つの宝(うつくしくまわりを・えがおであいさつを・きちんとくつならべ)ができていると思いますか。		

来年度の具体的な取組について

- ・学校、学級での具体的な取組を学校だより、学級通信や学校ホームページなどで保護者、地域の方に向けてわかりやすくこまめに発信していく。
- ・「確かな学力向上」を目指し、学習の振り返り指導と協働的な学びのための指導に力を入れて授業実践、研究を深めてきた。来年度も継続、発展させながら、更なる児童の学力向上に努めたい。
- ・人権教育や道徳の授業、集会活動などを通して児童一人一人のよさを認め合える活動に取り組んでいることや学校の支援体制を積極的に発信し、開かれた学校として児童を中心とした保護者との連携、地域との連携の在り方を模索し、よりよい連携協力につながるよう力を入れていきたい。
- ・教育環境については、不審者事案等児童が危険にさらされる状況が頻発したこともあり、学校を児童にとって安心安全な場所にするために、引き続き安全指導に取り組んでいく。保護者との連携を深めるために、学校の教育活動を学校ホームページで発信していることをさらに周知していく必要がある。
- ・本校の「三つの宝」推進については、自分たちの学校は自分たちの力でよりよいものにしていくという、これまで脈々と受け継がれてきた思いを大切にしながら、自分だけでなく学校のみならずのために、ひいては地域の人々のためにという相手意識を高めて取組を進めていきたい。

小中学校関係者評価

- ・目標設定がきちんとなされ、その目標に対する自己評価もきちんとなされている。「認め・褒め・励ます」ときに、「何を、どんな姿を」というめざす子ども像を先生たちが共通理解して、同じことを同じ角度で褒めてほしい。先生によって温度差がないようにしてほしい。
- ・全体的に落ち着いている。学年が進むにつれ、授業への集中力が高まり、また主体的に授業に参加している子どもが多かった。
- ・先生の話をよく聞いて、活発に大きな声で反応していた。子ども同士でお互いの意見を聞いている。対話(教師と子ども、子どもと子ども)の力がついてきている。
- ・映像を使った授業が多くなされていて、タブレットやモニターなど今の時代に合ったやり方で子どもも楽しく勉強できている。
- ・班で上級生が指導し、安全に注意して登下校している。あいさつについては、まずは、地域住民である私たちがしっかりと声をかけて盛り上げていかねばと思う。また、今年は不審者事案等多かったため、大人の見守りが必要である。
- ・学校ホームページでの学校の様子発信は、保護者の安心につながっている。
- ・表情が豊かで活力を感じる先生が増えてきたように感じる。若手の先生方の育成にも力を入れた学校経営の効果が出てきている気がした。子どもたちを育てると同様、これもまた管理職の繰り返しの声かけが必要である。また、働き方改革についても業務の見直しなど改善をお願いしたい。